

Daily Report(号外)

～FOMCの結果について～

概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は、11月6-7日に開いたFOMC(連邦公開市場委員会)で、フェデラルファンド(FF)金利の誘導目標を0.25%引き下げ4.50-4.75%とすることを全会一致で決定しました。

会合後に発表された声明文ではインフレについて「インフレ率が2%に収束するというより強い確信を得た」という文言が削除されましたが、「2%の目標に向けての進展を示したが、依然として幾分高い水準にある」との表現は維持されました。そのほか雇用について「労働市場は年初以降、労働需給は総じて緩和し」といった表現に改めるなど細かな修正はありましたが、「雇用とインフレの目標達成に対するリスクはほぼ均衡している」との認識を維持しました。

パウエル議長は会合後の記者会見で、政策スタンスに変更がないことを強調し、次回12月会合については引き続きデータ次第である姿勢を示しました。大統領選直後の会合ということで多く見受けられた政治に関する質疑応答に対しては、基本的に回答する立場にないというスタンスは崩さずに「財政政策にはコメントしない」と何度も繰り返しつつ、「選挙結果は短期的には我々の政策決定に影響を与えない」認識を示しました。また「(トランプ次期大統領に迫られたとしても)辞任はしない」と明言しました。

市場の反応

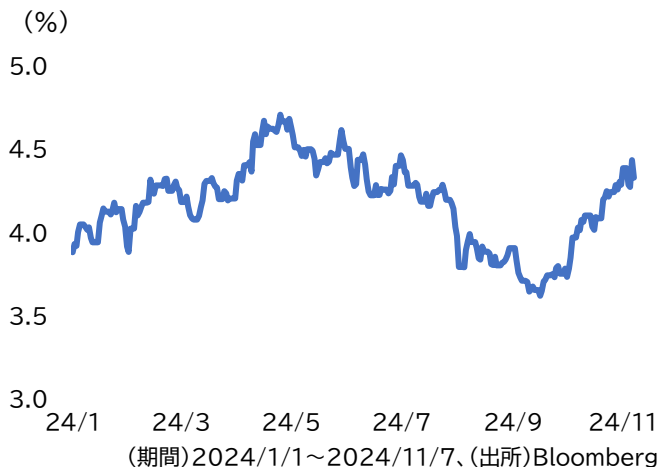
今回のFOMCの結果が市場の予想通りだった事を受けて、米国株式市場は大きく反応せず、NYダウは前日比0.59ドル安の43,729.34ドルで終えました。債券市場では米国10年国債利回りは前日から0.11%低下し4.33%で終えました。

外国為替市場では、ドル円は一時152円台となりましたが、その後153円近辺で推移しました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



評価及び今後の見通し

市場では今回のFOMCにて0.25%の利下げを織り込んでおり、大きなサプライズはありませんでした。

パウエル議長は記者会見にて今後の利下げペースはデータ次第であることを強調しましたが、選挙の結果が短期的な政策決定に影響しないとの見立てもあり、次回会合では0.25%の利下げの継続が予想されます。FF金利先物市場は12月に再度の0.25%の利下げを7割程度織り込んでおり、会合前後で変動はありませんでした。

12月会合はFOMC参加者のFF金利予測のドットチャートも発表される予定であり、トランプ大統領の再選を受け将来の見通しを上方修正する観測が高まっています。FRBは関連指標を精査し利下げペースを緩めるタイミングを見計らうものと思われます。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
12/12	ECB理事会
12/17-18	FOMC
12/18-19	日銀金融政策決定会合
1/23-24	日銀金融政策決定会合

出所: Bloomberg